

(様式第1号)

市民との意見交換会実施報告書

開催日時	令和4年1月19日(水) 13時30分～15時30分			開催場所	木野俣集落センター	
出席議員	氏名	役割	氏名	役割	氏名	役割
	佐藤 昌哉	趣旨説明	加藤 鑛一	開会・閉会	石井 清則	記録 議会だより
	佐藤 久樹	録音・写真 議会だより	小野 由夫	受付	佐藤 博幸	受付
	本間新兵衛	座長				
欠席議員	なし					
テーマ	中山間地域の活性化・振興策について					
団体等の名称	福栄地域5集落の自治会長及び元地域おこし協力隊員				参加者数	9人 (温海庁舎3人)
実施内容 (概要等)	・福栄地区には、平成27年11月19日に「人口減少、地域活性化対策特別委員会」においても意見交換しており、その後においても人口減少、少子高齢化が進むなかでのテーマについての現状や課題について意見交換を行った。 内容は、1. 地域コミュニティに関すること 2. 産業の振興に関すること 3. 高齢者福祉・子育て支援策に関することなど、それぞれテーマごとに話し合い、共通認識を図った。					

※主な意見及びその回答は、別紙のとおり

令和4年2月22日

鶴岡市議会議長 様

総務班 代表者 佐藤 昌哉

主な意見等		回 答 等	分 類			
			I	II	III	選択理由等（自由記載）
1 地域コミュニティに関すること						
1	雪下ろしや排雪、苦勞している。 支所長からの提案で、除雪部会の立ち上げをした。	▶除雪に関する各地域の取組み事例の情報を共有し、地域の除雪体制構築について検討の必要があるのではないか。 ▶市全体の課題として捉え、地域にあった除雪体制への取組みに対して支援をしていく。 (有償ボランティア、自治会活動の位置づけなど)	○	○		<ul style="list-style-type: none"> ・企画部 ・市民部 ・温海庁舎
2	除雪ボランティアがあるが、ボランティア募集に困っている。					
3	専門の事務職がいないため、自治会長が変わり、引き継ぎが上手くいかないと、事業が途切れてしまう。	▶自治会長含む自治会運営の担い手の継続性と自治会や地域運営にかかる財源確保が課題。世帯減少に伴う自治会費の縮減による事業継続の困難性も何え、今後は、自治会自らの取り組みについて、各自治会が連携して検討していく必要があるのではないか。 ▶自治会機能の維持は、地域振興や農業振興においても重要であり、行政各部署横断的な検討を要することと考える。 (例：近隣集落との事業連携の可能性や市街地町内会等との往来交流の可能性など。こども行事や大人の体験事業など地域外住民との関係づくり)	○	○	○	<ul style="list-style-type: none"> ・市民部 ・企画部 ・温海庁舎 ・市民文教常任委員会
4	人口減で、自治会費が減っている。 事業費減で調整し、負担を増やさず、中止せずに、飲食等を減らして対応している。					
5	自治会費は、資産割（山）と平等割。 山の価値が下がり、調整が難しい。					
6	移住者の自治会費は平等割。 何にいくら使用しているのかなど、事前に伝えないとトラブルになる。					
7	福栄地域協議会「福の里」には市からの予算があった。2年目以降は各自治会からとなり、減少している。					
8	若い人が出て行く。 やりたい事はあるが、出来ていない。人手や予算がない。					

9	地域貢献は難しい。 まずは自分の生活を立てていかないと。		○			
10	地域外の人があると、厳しい目がある。		○			
11	ご縁があり移住した。 福栄の山は、宝の山。	▶地域活性化の視点で、地域にどんな魅力や宝ものがあるのか掘り下げて調査・整理し、内外に発信または活用できるものがあるのか検討するプロセスは、大事なことと考える。	○	○		<ul style="list-style-type: none"> ・企画部 ・温海庁舎
12	移住してみて、居心地が良くなった、 山で生計が立てられる可能性を感じている。					
13	移住者でないと出てこない発想がある。					
14	他の自治体では、地域おこし協力隊の期間終了後に、就業や雇用継続する仕組みがある。	▶期間内での目的達成には困難性がある。期間終了後においても、地域や行政のサポートを担保し、生活できる環境を整えたうえで、引き続き情報発信、起業活動を担っていただき、活躍していただくことが必要ではないか。(他市の取組み事例の調査研究)	○	○		<ul style="list-style-type: none"> ・企画部 ・温海庁舎 ※所管分野、横断的な支援体制が必要
15	伝統芸能の維持は、人手が必要だが、子供がいない。継続するために、市内へ移住した方からの協力でなんとか継続している。 継続するために、他集落からも募集している。	▶伝統芸能や伝統工芸等の情報発信とともに、魅力ある素材や2-1の特産物を組み合わせなど、地域振興と産業振興(農業、観光)に繋がる企画検討が必要ではないか。 ▶伝統芸能行事の維持継続は、住民の郷土愛の醸成や生きがいなど地域活力となるものである。将来を見据え、住民意識調査など自治会などの取組みに対し、行政はどういう支援ができるか、ともに検討していく必要がある。(近隣の集落間での協力によって、相互の事業継続性の可能性を探ることなど。	○	○	○	<ul style="list-style-type: none"> ・企画部 ・教育委員会 ・関係委員会 ※市全体の伝統芸能の継承活動に対する支援策
16	関川のしな織は、収入・後継者・糸づくりする人などが減っている。	人・仕組み・財源等支援)				

2 産業振興に関すること						
1	越沢三角そばを復活させて、6次産業へ。今後は、販路が課題。 ※ 野尻姓が多い、長野県しなの町との交流予定	▶ 在来農作物の復活、生産拡大などアフターコロナを見据え、1-15、16との総合的な取り組みでの産業振興と地域振興の企画検討はできないか。16(食文化創造都市プロジェクト等の取り組み強化)	○	○	○	・農林水産部 ・温海庁舎 ・関係委員会 ※交流人口促進の期待
2	農地集約や法人化は、メリットや今後どうなるか等が分からない。 行政の人がいないと、制度が理解できない。	▶ 中山間地農業とともに住民の活動は、地域振興においては重要である。国の補助支援制度を活用していくことは、集落機能を維持していくための手法として期待できるため、情報提供や取り組みへの支援が必要と考える。		○	○	・農林水産部 ・市民部 ・温海庁舎 ・関係委員会 ※中山間地域直接支払制度の活用
3	林道の機能が果たされていない。 林道整備が必要。	▶ 森林組合はじめ、行政、営林署(国有林所管)の協議による、路網整備(林道・作業道等)に関する協議が必要である。	○	○	○	・農林水産部 ・温海庁舎 ・関係委員会
4	空き家が多い。 林業と漁業の募集に、空き家を利用できないか。	▶ 空き家を活用した様々なニーズの掘り起こしや対応可能性について、まずは地域で検討する必要があるのではないか。	○			
3 高齢者福祉・子育て支援策等に関すること						
1	オンライン診療は、高齢者はよく聞こえないし、よく見えない。今は湯温海の阿部医院から毎月第1、第3金曜日に診療に来てもらい助かっている。	▶ 地元開業医の診療は、地域住民の安心につながっており、継続されることが必要である。 ▶ 高齢者のオンライン診療については、相互の言葉の明瞭性や意思疎通が難しい課題があり、改善が望まれる。	○	○	○	・健康福祉部 ・温海庁舎 ・厚生常任委員会 ※高齢者通院の足の確保、負担軽減
2	訪問診療は、月2回来てもらっている。	▶ 高齢者のオンライン診療の構築を含め、鶴岡市SDGs 未来都市デジタル化戦略有識者会議でのテー				

3	県の補助で、医療の相談室を作ったが、若い人は来ていない。	マでもあり、今後の進捗についても注視していく必要がある。				
4	医療は車で市内に行くことがほとんど。 長い目で見ればなんとかなるのかもしれない。					
5	山間地や僻地は、移動や買い物など、余計な負担が多い。	<p>▶高齢者への日常生活における支援については、民間の移動販売車の定期的な巡回によって支えられているが、市街地への自由な買い物や通院等ができる仕組みやづくりが求められている。(温海地域のデマンドでの効果や他地域の取組み事例など)</p> <p>▶高齢者への声かけ運動や見守りなど民生分野での支援も地域にとっては大事なこと。係る、定期的な食事弁当代程度は、地域性に配慮した支援として検討すべきでないか。</p>	○	○	<ul style="list-style-type: none"> ・市民部 ・健康福祉部 ・企画部 ・温海庁舎 ・関係委員会 	
6	今は生協が月水金に来てくれる。 便利だが、自分で選ぶことが必要では？					
7	予約制の「あたたか弁当」300円位は、見護りも兼ねた地域の給食事業。補助があると助かる。					
8	高速道路や、鼠ヶ関インターにより、345号沿線の山道は過疎に拍車がかかる。 新しい道路や、コース作りが必要。	▶地域の観光など視野に、交流人口拡大策	○			
9	18歳位までの子育てに経済的支援が必要。	<p>▶保護者の職場通勤や学校通学など、自家用車に係る経費負担など、市街地との格差が広がっていることから、過疎地域や中山間地域に住み続けていくために、保育～児童～高校生等に係る支援策の検討が必要でないか。(ニーズ調査)</p> <p>▶子どもを産み育てられる環境、子どもの居場所づくりなど環境整備の可能性はないのか。 (実態と保護者意識は？経済的支援だけで住み続けられる？高校生の通学補助の増？)</p>	○	○	○	<ul style="list-style-type: none"> ・教育委員会 ・企画部 ・健康福祉部 ・温海庁舎 ・関係委員会
10	温海全体の出生数が、ここ数年20～30人くらい					

分類Ⅰ：今後の市議会活動の参考意見とするもの 分類Ⅱ：執行機関に伝えるもの 分類Ⅲ：議会（常任委員会、特別委員会、議会運営委員会、広報広聴委員会等）として調査・検討を行い、その対応を明らかにするもの